

みんなのひろば



▲行灯の優しい光が所沢の町を包んだ『第5回野老澤行灯祭り』。当日は子ども商店街、きもだめし、浴衣パレードなども行われ、所沢の夏の風物詩を楽しもうと多くの人が訪れました。
7月13日(土)／元町コミュニティ広場ほか
(撮影：市民カメラマン・遠井洋子)



▲大きな山車やみこしが町内を巡った『北秋津八雲神社天王様祭り』。夜になって行われた火渡り神事では、勢いよく燃えあがる炎の上を、みこしを担いだまま歩きます。
7月14日(日)／北秋津八雲神社
(撮影：市民カメラマン・白須信一)



▲所沢市内および所沢近隣の太極拳愛好家たちが集まって行われた『第6回所沢市太極拳祭り』。個人14人、団体68組がエントリーし、計1,201人の参加者が練習の成果を発表しました。
6月30日(日)／市民体育館
(撮影：市民カメラマン・三平資郎)



▲狭山ヶ丘駅から所沢商業高校へ続く道筋にある、和ヶ原商店街で行われた「和ヶ原商店街商業祭」。雑貨や食品などが100円で店先に並び、お買い得商品がたくさん！訪れた人たちは思わず足を止めて、買い物を楽しんでいました。
6月22日(土)／和ヶ原商店街
(撮影：市民カメラマン・平出敏夫)

おうちで 食べよう！ 所沢の学校給食

26 キムチチャーハン

栄養士さんが考えた学校給食のメニューの中から、所沢産の食材を取り入れたものや、特色あるレシピを紹介します。

- ◆今回の献立
キムチチャーハン★
牛乳
豆腐しゅうまい
こんにやくサラダ
ヨーグルトあえ



★キムチチャーハン

- 材料(4人分)
 ・米……………2合
 ・白菜キムチ……………100g
 ・長ねぎ……………1/2本
 ・ピーマン……………1個
 ・ガラスープ……………小さじ1/2
 ・しょうゆ……………小さじ1
 ・酒……………大さじ1/2
 ・ごま油……………小さじ1
 ・豚ひき肉……………100g

- 作り方
 ①米は、30分前にといでザルにあげておく。
 ②白菜キムチは、汁をしぼり細かく刻む。長ねぎはみじん切り、ピーマンはみじん切りにして、さっとゆでてから冷ます。
 ③①にガラスープ(粉末の場合は溶かしておく)、しょうゆ、酒を入れてかき混ぜ、普通に炊く。(水加減は、普通)
 ④フライパンにごま油を入れ熱し、豚ひき肉を入れ炒め、肉の色が変わったら長ねぎ・キムチを入れて、さらに炒める。しょうゆ・キムチの汁で味を調える。
 ⑤③の炊き上がったごはんに、④の具とピーマンを混ぜたら出来上がり。

ここがポイント キムチ

キムチは、韓国語で「野菜を漬けたもの」の意であることや、沈漬(チムチ)を語源としたものであるなどいろいろなお説があり、詳細は定かではないそうです。現在は世界各地で食されるようになってきました。
 学校給食では、子どもたちに人気のメニューのひとつで、食欲の落ちる暑い夏に、パンチのきいた「キムチチャーハン」をぜひ子どもたちと一緒に作ってみてはいかがでしょうか？
 問い合わせ 保健給食課 ☎2998-9249 ☎2998-9167



はっちゃん 野老っ子



のびのびとしていて芯のある、すばらしい歌声がレッスン室に響く。小柄な彼女からこんなにエネルギーの溢れる声が出るのかと、思わず聞きいってしまいました。今回は、「第14回高校生のための歌曲コンクール」で、優秀賞と、その中の成績優秀者に贈られる特別審査員賞を受賞した、芸術総合高等学校音楽科に通う吉原花子ナディーカさんをご紹介します。

吉原さんは11歳までスリランカで過ごし、幼い頃から合唱団に所属していました。声楽を本格的に始めたのは中学2年生のときで、「絵の道に進もうと思いき、声楽をやめた時期もありましたけれど、もう一度しっかりと歌の勉強がしたいと思い音楽科への入学を決めました。」と語ります。練習は1日約1時間～2時間。自宅と学校で練習を積み重ねています。「歌っていると気持ちがいい。同じ声楽を志す友達と一緒に勉強するのも楽しい。歌うことが大好きなんです。」と、声楽に対する熱い思いも語ってくれました。

今回のコンクールでは、趣味でピアノと歌をやっている吉原さんのお母さんが伴奏を務めました。「賞がもらえるとは思っていませんでしたので、名前を呼ばれたときは驚きました。お母さんと一緒に出場し

いつか世界に私の歌を

吉原 花子ナディーカさん(芸術総合高校2年)

た大会で賞がとれて、とても嬉しかったです。」と笑顔で答えてくれました。

声楽の指導をしている若杉先生とのレッスンは週に1度。声楽の指導はもちろん、イタリア語の発音や発声、言葉の意味、音楽用語なども教わります。若杉先生は、「彼女には語学力、歌唱力、体力の3つの力があり、世界へ羽ばたける力を十分に持っています。これからの成長がとても楽しみです。」と、吉原さんの可能性に大きな期待を寄せています。

8月8日(日)に韓国で行われる交流コンサートへの出場も決まり、「一緒に出場する国内から選ばれた5人の学生や韓国の学生との交流、初めての海外での演奏会が今からとても楽しみ。」と語ってくれました。

将来の夢を聞いてみると、「どんな形であれ歌うことは続けていきたい。いろんな国で私の歌を聞いて欲しい。」と少し照れくさそうに話した吉原さん。一度はやめかけた声楽の道でしたが、自分の力を見極め磨いてきた結果が今ここにあります。若き声楽家、吉原さんの今後の活躍にぜひご注目を。



▲若杉先生と吉原さん

ところざわ 歴史まめ知識 38

所沢市域に関する歴史的事項を50音順で紹介しています。今号は「ゆ」です。

郵便局 近代的な郵便制度が市内で始まったのは明治5年(1872)です。名主など江戸時代以来の村の有力者に「郵便取扱役」を請け負わせ、所沢の初代取扱役は向山小平次(4月号参照)が務めました。後に「郵便局」と改称され、通信業務や保険業務が加わります。明治45年(1912)の2度目の移転で敷地が大字所沢590番地に移り、同じ場所に昭和35年に新築され、昭和53年に現在(市役所東側)の場所に移転しました。昭和35年の建物は、郵便局の移転後も近年まで中央公民館などとして利用されました。

雄飛号 航空技術が国内に導入された草創期、飛行機と並んで活用が模索されていたのが飛行船です。明治44年(1911)初飛行の国産会式1号、大正元年にドイツから輸入されたバルセヴァル号、そのバルセヴァル号を改修して大正4年(1915)に作られた雄飛号など、初期の航空界で重んじられていた飛行船の技術は、やがて飛行機の有用性に押され一線から退きます。しかし、悠々と空を飛ぶ飛行船の姿は現在でも人々に愛されています。この、どこかユーモラスな飛行船の形をかたどり、雄飛号にちなんで名づけられた所沢銘菓が、ニッキの香りも高い「雄飛焼」です。

ユネスコ村 一定以上の年齢の人にとって、遠足や写生大会の場面とともに懐かし思い出されるのがユネスコ村です。当時狭山湖駅と呼ばれた現在の西武球場前駅の北側から、狭山湖堤防にかけての斜面一帯に、日本のユネスコ加盟を記念して昭和26年に建設されました。その名にちなんで、園内にはさまざまな国の住宅を模した建物が点在し、中央には「オランダ風車」がシンボルとしてそびえていました。後の西武球場と共に、狭山湖周辺のレジャー施設の核として親しまれましたが、平成2年に閉園しました。
問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究グループ ☎2991-0308 ☎2991-0309



さやわらげる美しい花火を見たいと思います。花火大会に出かける娘たちの浴衣姿も楽しみにして。

線香花火 東所沢和田 石塚 正徳
 一番の花火の思い出といえば、息子が3歳ごろのことを思い出します。庭で花火を楽しんでいる、締めくくりはやっぱり線香花火です。線香花火に火をつけ、玉の周りにきれいな火花が飛び、だんだん小さくなって最後には玉が落ちました。何を思ったのか、息子は落ちた玉を人差し指と親指でつまんだのです。一瞬の沈黙のあと、「ギヤァー」という叫び声。そのせいで、息子が泣きだしたのには驚きました。その時、すぐに水道水で冷やしたのですが、指先が温まると痛みます。その夜は徹夜で妻と交代で、息子の指に氷を当てていました。今では笑い話ですが、そのときは親も必死です。幸いなことに痕も残らずすみました。そんな息子も来年は大学受験生。今でも夏になると思い出、懐かしさで思い出です。

誰でもエッセイ テーマ「花火」
 西武園の打ち上げ花火 下安松 大友 京子
 夜空にきらめく夏の風物詩、花火。私は打ち上げ花火を見るのが好きです。40年程前、所沢に越してきた当時、2階の部屋から見た西武園の花火のきれいだったこと。高校生のとき、何人の友達と西武園に行き、間近で見上げた花火の迫力は今でも残っています。幼い頃見た亡き父の故郷である諏訪湖の花火大会の美しさが、心に焼き付いているのかも知れません。ナイアガラの滝や水中スチームライン、とても華やかで次々と打ち上げられる花火に魅せられて感動したことを覚えています。

